

外部評価委員会（平成15～19年度）開催される

ICCAE設立以来2回目の外部評価が2009年3月23日に行われました。今回の外部評価は2003から2007年度の5年間の活動が対象になりました。評価委員会は、田中耕司京都大学地域研究統合情報センター長、西川芳昭名古屋大学国際開発研究科教授、柘植尚志名古屋大学生命農学研究科副研究科長の3名で構成され、田中委員長を議長に自己評価報告書に対して質疑応答が行われた後、外部委員から意見と提案が出されました。5年間の活動評価とともに、教員の研究とICCAEのミッションであるコーディネートなどのセンター業務の関係、将来、ICCAEが教育にどこまでどのように携わるのか、紀要の今後の位置づけについて焦点を当て、討議が行われました。（松本哲男）

平成21年度名古屋大学総長裁量経費に1件採択

ガボン国における森林資源利用の実態に関する研究

ガボン国は、アマゾンに次ぐ熱帯林地帯であるコンゴ河流域に位置し、高い森林率と生物多様性を誇る一方で、熱帯雨林の急速な減少が最も懸念されている国の一つです。そのため、適切な管理に向けた対策が必要とされていますが、これまでに同国の森林資源利用の実態や熱帯雨林減少の要因・メカニズムは明らかになっておらず、対策を講じるための基本的なデータもありません。この研究では、ガボン国において熱帯雨林地域に住む人々の森林資源利用の実態やその経済効果を把握するための現地調査と分析を行い、その結果をガボンのみならず他のコンゴ河流域諸国における熱帯雨林保全のための方策、また国際社会による支援の方向性を見出すための貴重な材料とします。（伊藤香純）

JICA課題別研修（長期）「生命農学国際コース」の開始

名古屋大学大学院生命農学研究科は、農業／農村開発のための政策立案・実施・マネージメントに関わっている開発途上国の大学・研究機関・省庁の職員の人材育成を目的としたJICA課題別研修（長期）「生命農学国際コース」を2009年4月より開始しました。

ICCAEのプロジェクト開発研究分野では、第一号となるガボンからの研修生、Mr. Mikolo Yobo Christianを博士課程（後期課程）に受け入れました。Mr. Mikoloは、ガボンの熱帯生態研究所（IRET）に所属する研究員で、主にガボン土着のフルーツが地域住民の生計に与えている影響について調査・研究を行い、これらを保全するための政策案を含む博士論文を作成する予定です。（伊藤香純）



外国人客員研究員

ネリカ耐冷性の品種間差異の検定とケニア高原地方に適した耐冷性イネ品種の選抜

ピーター・マシンデ ジョモケニヤッタ農工大学農学部園芸学科上級講師
ICCAE客員研究員（2009年5月7日～11月5日）

ケニアのコメ増産を図る上で、高原地帯における稲作振興は極めて重要です。しかし、ケニアの高原地帯では、低温による不稔糊の発生（障害型冷害）が問題となっています。ジョモケニヤッタ農工大学は、この問題を解決するため、ICCAEと共同研究を行っています。私は、昨年ICCAEに招へいされたフンジャ・ムラゲ博士の研究を引き継ぎ、ネリカ品種の耐冷性を検定し、ケニア高原地方に適した耐冷性イネ品種を育成するための研究に取り組んでいます。私は、日本滞在期間中、ネリカの耐冷性を明らかにするとともに、日本の優れたイネ研究手法を学びたいと考えています。



略歴 1970年ケニア生れ。ジョモケニヤッタ農工大学農学部園芸学科卒業後、同学科ティーチング・アシスタントならびに助講師として勤務。1998年ナイロビ大学農学部園芸学科修士課程を修了し、ドイツ・ハノーバー大学博士課程にて2003年博士号（園芸学）を取得。2005年岡山大学客員研究員。2003年12月より現職。